

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月7日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No. 9】

「JR労研」は革マル活動家の養成源か

前号では、本間雄治氏の陳述書を基に、JR総連内の革マル派へのカンパの実態を検証した。当時のJR総連委員長・小田裕司氏がカンパ集約の責任的役割を担い、JR東労組委員長・石川尚吾氏が、東労組におけるJR革マル派の基本組織メンバーを指導する「LC会議」の最高責任者を務めていたという。これが事実なら、JR革マル派の責任者がJR総連・東労組のトップを務め、組合運動を指導しているということになる。これは、まさに「政府答弁書」が「JR総連及びJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」と断言したことの裏付けではないのか。JR総連傘下の単組や東労組の地方組織においても、JR革マル派が幹部ポストを牛耳って、組織を支配しているという可能性は、ますます強まったといえる。

闇の組織「JR労研」から革マル派組織内に活動家が吸い上げられる！

本号からは、JR総連内でのJR革マル派の活動家養成や組織支配の実態を検証することとし、本間氏が「革マル派のフラクション（細胞）の一つ」と呼ぶ「JR労研」について記載したい。西岡研介著「マングローブ」では「組合を裏で操る『労研』の存在」との見出しで、本間氏の以下の証言を紹介している（p.203）

実はJR東労組は二重構造になっていて、JR東労組を実質的に支配しているのが、この労研なのです。「Aメンバー」「Lメンバー」たちが組合活動に熱心な組合役員をピックアップし、「労研」への入会の決意を促すのです。実際、この労研から多くの幹部が輩出されています。

また労研は「中央労研」「地方労研」「支部労研」と縦組織になっており、中央会費、地方会費、支部会費などが定期的に集められ革マル派に上納される。

この労研は「革マル派のフラクション（細胞）の一つ」といわれているのです。当然のことながら革マル派の影響を色濃く受けており、松崎の著書などを教材に学ぶのです。

なお、「JR労研」の実態は次号から検証する。本間氏はJR総連らが原告の「週刊現代裁判」の被告側証人として出廷し、3月3日の証人尋問で、自ら「JR労研」に入っていたことを認めたとうえで、JR革マル派の活動家の養成の実態について興味深い証言をした。

（本間氏）私の実体験から言って、一気に職場の中で「解放」を読めだとかということは言えませんから、その段階で、「労研」という労働組合をまじめにやる集まりがあるから、そこで一緒にやらないかという段階を経て、その中からより優れているといいますが、より理解がある者を「読」へというような活動をやってきたという実体験から、私はこれを書いたんです。

（裁判長）そこ（JR労研）での活動のいかんによって、革マル派の思想として正しいことというか、良いことを言っている方はどんどん革マル派の組織内に吸い上げられていくという実態があったということですか。

（本間氏）そうです。そういう認識で結構だと思います。